

事務事業チェックシート

事務事業No 332 事業名 動物との共生推進事業

分野別目標	2	個人を尊重し、人々がともに助け合う優しいまち
政策	1	地域福祉と健康づくりの推進
施策	4	生活衛生対策の推進
基本方針	2	人と動物が共生しやすいまちづくり

事業種別	継続	主な事務事業
事業期間	～	
事業実施の根拠法令	動物の愛護及び及び管理に関する法律	
関連個別計画		
担当課・担当課長 (Tel)	生活保健課	辻村 光司 (488-5114)
関連課		

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費
	その他		
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務
	その他		
会計・予算区分	会計	一般会計	
	款	衛生費	
	項	保健衛生費	
	目	狂犬病予防費	
	大事業	狂犬病予防事業	
事項	動物との共生推進事業		

「3つの約束・44の約束」との関連性

3つの約束	産業を元気に	まちを元気に	人を元気に	非該当
			○	
44の約束				○

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的（「誰・何」をどういう状態にする」ための事業か）	事業内容				
	市民が、動物の愛護と適正な飼養に関する正しい知識を持っている状態にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・市報・ホームページ等で犬猫の適正飼養及び繁殖制限等に関する啓発を行い、また飼い主等の指導も行う ・ボランティアの協力により保健所にてしつけ方教室を開催 ・譲渡事業（保健所にて譲渡講習会、犬猫の譲渡を行う） ・学校における動物愛護教室（命の大切さ等を教育） ・動物愛護フェアの開催 				
実施内容		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		小学校への出前授業（わうくらす）：65回 しつけ方教室の開催：5回 健康応援フェア（動物愛護コーナー開設）：1回 犬猫の譲渡講習会：54回	小学校への出前授業（わうくらす）：56回 しつけ方教室の開催：8回 健康応援フェア（動物愛護コーナー開設）：1回 犬猫の譲渡講習会：54回			

2 事業コスト

	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	計画	決算
事業費	775	385	721	448	636		636		636	
伸び率 (%)	-	-	-7.0%		-11.8%		0.0%		0.0%	
人件費	常勤職員	7,199	5,429	5,424	5,825	5,820	5,820		5,820	
	非常勤職員	2,530	1,026	1,026	1,406	1,569	1,569		1,569	
	小計	9,729	6,455	6,450	7,231	7,389	7,389		7,389	
千円										
国庫支出金										
県支出金										
市債										
その他										
一般財源（税等）	775	385	721		636		636		636	
所要人数	常勤職員	0.97	0.73	0.73	0.78	0.78	0.78		0.78	
	非常勤職員	1.28	0.51	0.51	0.67	0.78	0.78		0.78	
主な予算内訳	報奨金（303千円） 消耗品費（177千円） 等									

3 目標及び実績

		指標名及び達成状況				平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
活動指標	小学校への出前事業（わうくらす）回数	年度目標値			48	53	58	63	65	
		実績値			65	56				
	単位	回	全体目標値	65	全体目標達成度	86.2%	年度別達成度	135.4%	105.7%	
	犬猫の譲渡会開催回数	年度目標値			33	39	45	51	54	
実績値				54	38					
単位	回	全体目標値	54	全体目標達成度	100.0%	年度別達成度	163.6%	97.4%		
成果指標	犬猫の苦情件数減少率：当該年度の苦情件数／平成18年度の苦情件数（369件）	年度目標値			50	50	50	50	50	
		実績値			83.2	155.8				
	単位	%	全体目標値	50	全体目標達成度	60.1%	年度別達成度	60.1%	32.1%	
	犬猫の譲渡頭数	年度目標値			45	50	55	60	65	
実績値				72	26					
単位	頭	全体目標値	65	全体目標達成度	110.8%	年度別達成度	160.0%	52.0%		

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	○ 達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持		○		
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	市民の動物愛護に対する関心が高まっているため、事業を計画的に進める必要がある。
「見直し」 「改善」案	市報やインターネット等のマスメディアを通して、動物の愛護及び適生飼育の啓発を行い、さらに犬猫の譲渡希望者を募っていきます。効率的な印刷方法を考え、コスト削減に努めます。